

# 七福神再考（その二）

## — 七福神に明日はあるか？ —

蓮沼啓介（神戸大学名誉教授）

### 〔要約〕

本研究は現行の七福神には男尊女卑という欠陥があることを指弾して一体の入れ替えを提議するものである。福祿寿を下ろして武則天を入れろという提言である。

### 1. 七福神の将来

#### 1.1 七福神に明日はない

七福神は差別的である。

全体として男尊女卑である。

どこが？

布袋だけが実在の人物である。実在は男だけ。

#### 1.2 どうすれば良いのか

実在した女人を一人新たに七福神に加えればいい。

まず現在の七福神から一体を取り除く必要が生じる。

そのためには実績評価が欠かせない。

常勤と非常勤を区別する。

#### 1.3 どの神を外すか？

恵比寿、大黒天、弁財天、毘沙門天が常勤である。

福祿寿と寿老人と布袋が非常勤である。

非常勤を一人削る。

福祿寿と寿老人は半ば重なり合っている。

福祿寿を外す。

#### 1.4 新人の選抜法

実在した女人のうち誰がふさわしいのか。

美人コンテストと才能テスト双方の二重合格者が適任である。

非常勤の神仙たちの中で実在した女人は楊貴妃だけである。

楊貴妃は美人コンテストには通るが、才能テストの一番には成れない。

### 1.5 二重の一番は誰か？

武則天である。本名は武照という。

武媚娘といい武才人という。才覚に溢れる美少女であった。

文字通りの花形である。

才人とは後宮の小間使いであり、妃嬪の候補生である。

## 2. 武則天が候補である

### 2.1 武則天が一番である

美人コンテストに受かる美少女である。

才能コンテストに受かる才人である。

母親は楊達の娘である。

楊達は隋の皇帝となった楊堅の末弟である。

### 2.2 身体検査が必要である

難点探しという篩に掛ける。

そのためにはまずその実績の点検が不可欠である。

ところが実績があまり明らかではない。

あまりに非常識な人物なので毀誉褒貶が激し過ぎる。

### 2.3 武則天の虚像

史家が歴史を捏造している。

生まれたての我が子を締め殺したという話は「残忍な妖婦」というコンセプトに基づいて創作されたフィクションである。

大雲経を偽撰し弥勒菩薩の化身であると自称したというが、実際には大雲経撰疏を作ってその候補であると唱えたに過ぎない。

### 2.4 武則天の実像

則天暦を制作した。

則天文字を普及した。

後宮改革を実現した。

明堂と天堂を新設して政治改革を指導した。

大雲寺を展開して女人政治を宣布した。

### 2.5 尊号の変化

聖母神皇 垂拱元(689)年五月

聖神皇帝 天授元(690)年

金輪聖神皇帝 長寿二(693)年 (転輪王を目指した！)  
 越古金輪聖神皇帝 延戴元(694)年五月  
 慈氏越古金輪聖神皇帝 証聖元(695)年正月 (弥勒を目指した！！)  
 金輪聖神皇帝 証聖元(695)年二月 (弥勒に成り損ねた！？)  
 天冊金輪聖神皇帝 証聖元(695)年七月 (神仙を目指した！！)  
 聖神皇帝 聖暦三(700)年=久視元年五月 (力尽きた！！)  
 則天大聖皇帝 神龍元(705)年

### 3. 武則天の実績

#### 3.1 則天曆とは？

子の月である十一月を歳首つまり正月とする暦である。

十二月は隴月といい一月二月と続く。十月が歳末である。

戴初元(689)年正月から行われた。

天授元(690)年正月は庚寅の年であったが戊子の年に変更された。国号を周とし武則天は登極して皇帝に即位した。

#### 3.2 則天文字

天象。天と星は不易であるから篆書体をそのまま使う。

日は○に乙を入れる。月は○に出を入れる。

地勢。地=山+水+土。照=日+月+空。

君=天+大+吉。臣=一+忠。

人事。戴は字体を変える。初=天+明+人+土。

年=千+千+万+万。正は異体字を使う。

#### 3.3 女人の系譜

周から唐までの王や皇帝の側女の定員をまず次に示す。

	夫人(3)	嬪(9)	世婦(27)	女御(81)	出典	
周					周礼	
漢武帝	婕妤・◇娥・容華・充衣(9)					
後漢	美人		宮人	采女	後漢書 皇后紀序	
晋	夫人(3)		女史・賢人・蔡人・中使・大使		大唐六典	
隋	夫人(3)	嬪(9)	婕妤・美人・才人	宝林・御女・采女	(同上)	
初唐	妃(4)	嬪(9)	同上(27)	同上(合計で120位)		
開元令	后(1)	妃(3)	儀(6)	美人(3)	才人(7)	大唐六典
		正一品	正二品	正三品	正四品	(20人)

初唐には120人位居た君主の側女たちは盛唐には20人にまで減った。

### 3.4 女官の定員の推移

	六尚	六司	六典	(掌)	(女史)
隋文帝	12	12?	12?		
煬帝	12	28	28	28	?
唐玄宗	12	58	60	48	90

玄宗の時代に六尚の定員が拡充されている。内訳は次の通りである。

尚宮	2	司 12	典 12	掌 12	女史 20
尚儀	2	司 10	典 10	掌 10	女史 16
尚服	2	司 8	典 8	掌 8	女史 12
尚食	2	司 10	典 10	掌 10	女史 14
尚寝	2	司 8	典 8	掌 8	女史 10
尚功	2	司 10	典 12	—	女史 18
(合計) 六尚	12	司 58	典 60	掌 48	女史 90

### 3.5 政治の実績

皇后への昇格。 策謀と権力闘争の日々である。武人貴族への挑戦状である。

共和政治。 天皇と天后と号す。男尊女卑への挑戦状である。

称制。 正当性への危機感から恐怖政治を実行する。恐ろしい告密の制度化。

登極。 聖母神皇から聖神皇帝へ。

## 4. どんなご利益があるのか。

### 4.1 武則天の効用

信賞必罰の神である。

報償 rewards と懲罰 punishments を与える神である。

懲罰が適切であればタナトスという本能を制御できる。

報償が適切であればエロースという本能を調節できる

### 4.2 武則天の歴史的な意義

中国式の世襲の王朝では女帝は出現できないことを実証した。

武周の成立には無理がある。

睿宗を幽閉また皇嗣に封じ込め。

血縁が父系的であると女帝にはなれない。

子供たちは別姓になるため、後継ぎにできない。  
結局帝位を中宗や睿宗に戻すしかなかった。

#### 4.3 中国史の段階区分

古代中国	武人貴族の支配	西周から初唐まで	(武周と盛唐は端境期である)
中世中国	文人官僚の支配	晩唐から清末まで	(革命中国は端境期である)
近代中国	才人市民の支配	中国革命の時代	(21世紀の市民革命は始まったばかりである) (およそ千年くらいは続く見込みである)

#### 4.4 中国革命の現段階

革命の段階	革命の目標	革命の主力
民主主義革命	民族の独立	中国国民党
社会主義革命	民生の向上	中国共産党
民権主義革命	民権の伸張	中国民権党

### 5. 革命の原動力

#### 5.1 哲学の革命

意味論の大展開が続いている。

Frege, Russell, Wittgenstein (論理と数理の探求)

G.E.ムーア、G.ライル、J.L.オースティン (日常と言葉の探求)

身間の発見とカテゴリーの再編 (三物論の宇宙)

( 唯物論にさようなら。三物論に今日は。 )

#### 5.2 実在の構造

もの	物質	事物	reference	外部感覚	外界	視覚	め	空間
いのち	生命	生物	force	境界感覚	全身	触覚	手足	身間
こころ	精神	人物	sense	内部感覚	内心	聴覚	みみ	時間

#### 5.3 並び替え ( 階層構造論に基づく、A類、B類、CD類 )

こころ	精神	人物	sense	内部感覚	内心	聴覚	みみ	時間
もの	物質	事物	reference	外部感覚	外界	視覚	め	空間
いのち	生命	生物	force	境界感覚	全身	触覚	手足	身間

#### 5.4 新しい五倫五常

五倫五常を次のように読み替える。

親子の親密

夫婦の別

長幼の序

士民の義（或いは官民の義ともいう）

朋友の信

#### 5.5 ミニ武則天出でよ

武則天のおよその経歴と則天暦について多少の知識を持つ女人がミニ武則天である。

ミニ武則天は民権主義革命の担い手たちである。

ミニ武則天は男尊女卑の悪習を根こそぎ根本から断ち切る現代の孫悟空たちである。

以上。

#### 参考文献

蓮沼啓介 2024 「那の津の潮風」神戸法学雑誌 74 巻 1 号。

同 2025 「転輪女王 武則天」同 75 巻 1 号掲載予定。